

ボーイスカウト東京第四団

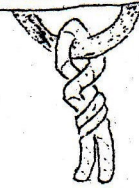
機南紙

R.S

No. 74

Nov. 1, 1965

スマイル



たまには損をしよう

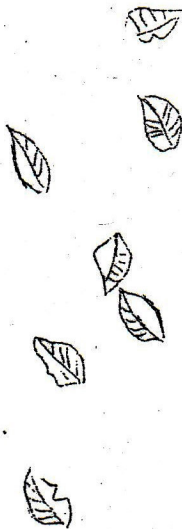
団委員長 田中正男

スカウト運動と奉仕の精神は元来切っても切れぬ縁がある筈である。ところがこのころは進んで奉仕をしようという気が少ない。後自分達の部屋はきれいに清掃され整頓されてくる人が気持よく過せる様に教会の周回を清掃する事だ。一つの小さな奉仕だ。我々が献金で始められた教会改築の第一期工事もやがて完成しようとしている。

牧師先生たちの引越を進んで手伝ってあげたらどうだろう。奉仕の種はそこいらにいっぱいころがっているではないか。

報いを望まない奉仕の精神 それこそスカウトの精神ではないだろうか。

手伝、たらいくらくれるだろうか、食事は自分で損をしようじゃないか。などと考えずにたまにどうだろう。



ローバースカウトとして

青年隊 関口敦夫

現在ローバースカウトの研究が日本においてなされたのはつい最近の事です。僕達は今まで規定らしいものもなくシニアの延長からぬけだそうとしても一体どこにいっていいんだかわからないのが現状でした。これからは四団としての一つのフォームを作るといふことが僕達に与えられた使命だと思ひます。それがそれには何十年もの間多くの人が研究してきて英国ローバースカウトの研究をベースにしなければならぬと思ひます。ただ昔からよくいわれるのですが、地域ローバースカウトと学生ローバースカウトとは集会所の他奉仕に違いと違ふという問題です。でも一体どこが違ふのでしようか？たしかに地域ローバースカウトとローバースカウトとを比べると、ローバースカウトはローバースカウトの幹線所だけを終つてはならないと思ひます。又、たとえ幹線所であつてもよい人又技術的にすぐれた人を送れば絶対に喜ばれるはずで、この意味からいへば隊というものは重要なものとしてその活動の重要性を僕達は学ばなければならぬ。隊のプログラムの中でスカウト一人一人に自己を成長させるものを又それに対するフアイトを与えれば、彼らはそれだけで、

彼らにとつて必要なプログラムが自然に与えられるでしよう。そしてそれを兼ねこえて成長するでしよう。でもそこで何もしてない人はいつまでもそこに止まっていなくて、気がつかせてあげると、ゆるゆると、それこそ立派にや、てゆるゆると、ローバースカウトがある以上それを正しい形にし、そして四団特有の持ち味をいかして一つのフォームを作つてやらは、それを最大限にいかして奉仕をすることができると思ひます。ローバースカウトとして僕達にもう一度研究のフアイトとは、きつとしん心がかまえて持とうではありませんか？

歌名 オルフェウス

ギリシャ神話より

ギリシャのテッサリアの地方の美しい谷間に、オルフェウスという男が住んでいました。オルフェウスは毎日、金のたてこをひいては、だれもきいたことのないうたを、すばらしい歌をうたつていました。オルフェウスがうたうたびに、鳥やけもの、その歌をききにきました。木々は頭をたれて、しずかにききいりました。空の雲も、えも、その歌をきくと、いっそう美しく輝きながら、ゆつくとたなよいました。足もとを流れる小川までが、やさしい音をた

てて、歌とともにさらさらと流れるのでし
 た。さて、オルフェウスにはユウリデケと
 いうおくさんがあって二人は心から愛しあ
 った。冬のおりました。山々が雪におおわれ
 る冬の間も、お日さまの光がすべてのもの
 を美しく輝かしている夏の間も、オルフェ
 ウスは毎日、ユウリデケのために歌をうた
 いました。するとユウリデケは、オルフェ
 ウスとやらんで草の上にとわいて、ところ
 々とその歌にききほれるのでした。ところ
 々ある日、ユウリデケは子供たちと川岸で
 遊んでゐるうちに、草の中にいかにふ
 みつけてしまつたのです。へびはおこつて
 ユウリデケにかみつきました。ユウリデケ
 は、へびの毒で重い病氣にかかりました。
 やがてユウリデケは自分がかかりました。
 けれど、おとらなれいことをさすると、子供
 を被元におとらなれいことをさすと、子供
 います。おとらなれいことをさすと、子供
 ろう。おとらなれいことをさすと、子供
 心に別れるのは、ほんとうにうらなれい
 可けれど、おとらなれいことをさすと、子供
 ので、ユウリデケは、おとらなれいことをさ
 て目をとじると、そのまゝ息をたえてしま
 のです。子供たちはおとらなれいことをさ
 いき、おかあさんのことばをつたえまし

子供たちからきいたオルフェウスの悲しみ
 は、どんなに悲しむか。オルフェウス
 は、なげきと悲しみのあまり、二度と金の
 てごつとをひくまい、二度と口をひらいて
 灰することもすまいと決心しました。オル
 フェウスは、くもくもくもくもくもくもくも
 自分の歌にききほれる日もある、ユウリ
 、灰に、ほんやいとすわりの川岸の草の上
 そして、灰の息をついては、なみだに
 ていまして、灰の息をついては、なみだに
 フェウスがもう美しい歌をうたわなれい
 と、悲しみに思いました。とうとうある日
 ユウリデケをとりのもどそうと心にきか
 。「ほくほくほくほくほくほくほくほくほく
 をさかして、おとらなれいことをさすと、
 ぼくは、おとらなれいことをさすと、
 だん、おとらなれいことをさすと、
 んで、おとらなれいことをさすと、
 そと、おとらなれいことをさすと、
 をさかして、おとらなれいことをさすと、



つづく。

昭和40年度育成費予算報告

収入	少年隊	130.000
	少年長	100.000
	少年	30.000
		<u>260.000</u>
支出	会議費	12.000
	紙費	20.000
	通信費	5.000
	事務費	5.000
	地価	4.000
	指図書	15.000
	修費	5.000
	行事費	113.000
	用品費	30.000
	章費	26.000
	係費	20.000
	予備費	5.000
	雑費	<u>260.000</u>

団委員会報告

十月十六日
於客室 出席八名

一 昭和40年度育成費予算案の決定
 ・ ジャンボリーをいかに運営面でも多
 くの問題をかかえていこうとする必要あり
 各項目について活発な討議がなされ
 行事費及び備品費の各隊への配分の率
 について再検討の余地ありと認められ

十一月の行事

○ 十月十三日(土)

バザール

午正則十時から午後三時半まで

● 十一月二十三日(火)

東京連盟合同訓練大会

於駒沢陸上競技場

午正則十時から午後三時

一 国会議報告

・ 日本ジャンボリー参加費の一人当り約
 一万円のうち四千円位団から補助して
 ほしい旨申し出があつた。しかるに
 委員会として各スカウトへの補助金
 は不可能であるため各人への補助はし
 ないことに決議した。

以上

スマイル 1674

発行日 昭和四十年十一月六日発行

発行所 東京市港區赤坂南坂町五

東京市港區赤坂南坂町五

東京市港區赤坂南坂町五

東京市港區赤坂南坂町五